第3次赤磐市総合計画（素案）に関するパブリックコメント（市民意見募集）の結果

意見募集期間 令和7年2月20日から令和7年3月17日まで

意見募集結果 16件（8名）

意見 番号	該当部分・項目	いただいたご意見の内容	市の考え方
1	P.13 第1節 赤磐市の 現状整理 (5) 子育て環境	well-being について、平均的な位置など良い部分を見るのではなく悪い部分を見て改善策を考えるべき。	現状分析の部分については、様々な角度から現状を分析し、課題と取り組むべき施策を整理しています。 低い項目（「医療施設徒歩圏人口カバー率」「保育所への距離1kmの住宅割合」「公園緑地徒歩圏人口カバー率」など）は、市域の広い自治体では比較的低く出る傾向にあるものと考えます。そして、改善策は、主に公共交通施策が想定されますので、ご意見を参考にして引き続き事業を推進します。
2	P.18 第2節 市民の意識 (1) 令和4年度 市民アンケート / 【全体の相関 図】	交通・モビリティ関連（2, 30, 31, 32, 33, 34）はすべてAゾーンに入っているにも関わらず、計画における記述は限定的だと感じました。文量も少ないです。赤磐市において交通は喫緊の課題です。赤磐市は都市機能が分散しすぎていると思います。新拠点の中心となる岩田地区と人口密集地である桜が丘の距離は、歩いて行くには遠すぎるし、車で行くには近すぎます。山陽、赤坂、熊山、吉井は合併して20年経っても独自の地域性を保っており、	ご指摘の通り、公共交通に関しては様々な課題があり、市民ワークショップでも多くの声をきかせていただきました。 公共交通の分野では、赤磐市地域公共交通計画に基づき事業を推進します。

		<p>それぞれに中心拠点があります。それらの拠点を結ぶ公共交通網は、十分であるとは言い難いと思っています。</p> <p>そのような現状に対して、この計画はコミットメントが弱いのではと感じます。温暖化対策基本計画においては、モビリティについてより踏み込んだ記述がありました。それらの情報も取り入れつつ、実行可能性を検証して、より挑戦的な計画が必要なのではないかと思います。</p>	
3	<p>P. 18 (1) 令和4年度 市民アンケート /【全体の相関図】</p> <p>P. 32～P. 36 戦略プログラム I-② 農業に携わる人が誇れる魅力創出プログラム</p> <p>戦略プログラム I-③ 観光振興による賑わいと</p>	<p>P18 市民アンケートにおいて、農業分野 (8, 9)や観光分野 (4, 5, 6)は C、D ゾーンに配置されており、改善効果が低いと示唆されています。それにも関わらず、総合計画ではかなりの分量をもって、取り組みが明文化されています。</p> <p>農業の振興については、個人的にはまちや国の発展のために必要不可欠であり、後継者不足となっている市の農業に対して対策を行っていくことは非常に重要だと思います。一方で、アンケートの結果としては、ベッドタウンとしての特色が色濃いと感じます。農業に従事するよりも企業で働くことを望む市民が多いことが表れているようです。</p> <p>観光については、赤磐市の観光資源は限定的であり、総合計画で積極的に取り組むことについては疑問です。アンケートを見ても、優先的に取り組むところではないのではないかと感じます。</p>	<p>いただいたご意見については、今後の産業振興関連施策の参考にさせていただきます。</p> <p>農業従事者の高齢化、農業後継者の減少の現状は、課題としても認識しているところであり、その様な中で大規模化・効率化などの支援も推進してまいります。</p> <p>一方で、観光には、多様な主体が交流・連携することで賑わいと活力を創出することや歴史、文化、自然、スポーツ等の地域資源に目を向けることで地域への愛着を醸成することなども期待されます。さらに、移住定住など他の施策へも寄与することが期待されます。</p>

	活力創出プログラム	この2点については、市民の実感と計画との間で少し乖離があり、実行においてその乖離が障壁とならないよう慎重に合意形成を行っていく必要があると思います。	
4	P. 20 (3) ワークショップ	「スマートシティ」「コンパクト化」とあるが都市からの移住者はそれを求めて来る人は少ないと思う。自然があり、家庭菜園や畑をして生活などゆっくり過ごしたい人も多いと思う。そんな中でコンパクトにまとめてしまうのはどうかと思うし、防災、防犯の観点からもスマートシティ化は危険すぎる。スマートシティ化は市が管理はしやすいかもしれないが、高齢者や子連れが北から南へ用事をすませに行くのは大変。テロなどが起きた場合に関しても分散型が安全。地域の声を聞きながら丁寧に進めるべき。	ご意見いただいた箇所は、ワークショップで市民の方からいただいた意見をまとめた箇所です。
5	P. 24 第4節 土地利用構想（将来都市構造）	北へ行くほど何もない事に対する施策は？	各地域にはそれぞれの特徴、魅力がありますので、地域特性にあった施策を推進することとしております。なお、過疎地域に指定されている北部地域では、赤磐市過疎地域持続的発展計画等に基づいて事業を推進します。
6	P. 24 第4節 土地利用構想（将来都市構造）	町苧田（旧ローソン跡）にLOFTを建設して欲しい。笹岡学区にウーバーイーツが来て欲しい。桜が丘中央ショッピングセンター跡地にIKEAを建設してほしい。	いただいたご意見については、全て民間事業者が出店するか検討する事項であると考えます。
7	P. 27	合計特殊出生率は、15歳から49歳までの女性（対	基本構想の「将来人口の目標」を達成するため、基

	<p>重点戦略 こども/子育て ・教育環境が整ったまち</p>	<p>象女性)の年齢別出生率を合計したものです。 そのため、その年次の対象女性の社会減(転出超過)によって上昇し得る数値です。 (なお、P8でお示しされているとおり、2015～2020年における15～49歳の間の女性は若干の社会減になっています。) また、「主な現状・課題」として掲げられている内容は、人口減少に関するものではなく、子育て環境に関するものです。 そのため、そうした課題に呼応する指標としては、P13のwell-being指標の改善等が考えられるかと思えます。 以上の理由により、P27の標題である「子育て・教育環境が整ったまち」に対する評価指標として、合計特殊出生率を選択することは、多少の相関関係はあれど、因果関係としては乏しいので評価指標の見直しが適当と思えます。</p>	<p>本計画にある各施策を推進します。 その中で、子育て・教育環境が整ったまちとなり、結果的に合計特殊出生率の上昇に繋がることを意図しています。 基本構想の「主な現状・課題」には、基本計画の記述を抜粋しているところであり、ご指摘のとおり必ずしも人口減少に言及するものとなっていないものの、上記趣旨から出生に関する指標が必要と考えます。</p>
8	<p>P.27 重点戦略 こども/子育て・ 教育環境が整ったまち</p>	<p>我が子はスクールバスで登下校しており、大変ありがたいですが、地震や事故などトラブルがあった際に、バス(運転手)がどのような対応をし、教育委員会や学校、保護者がそれぞれどのような対応をするのか決まっておらず、マニュアルも無いため、それで良いのか疑問がある。家庭でも、子ども達にどう指導すればよいのか分からない。 2年前の大雪による交通渋滞バスの到着が2時間</p>	<p>いただいたご意見については、今後の教育関連施策の参考にさせていただきます。 スクールバスの拡充、支援員の増員はいずれも費用のかかることですので、限られた財源をどの事業に配分していくか、どの事業をやめて拡充・増員へ財源を振り分けるか判断することとなるため、慎重に検討する必要があることについてご理解をお願いします。</p>

遅れたことがきっかけで、安全に対するマニュアルが無いことが分かり、教育委員会に問い合わせ、各地区役員にも周知させた。「そんなことで騒いでスクールバスが無くなったらどうするんだ」と批判してくる保護者もいたが、マニュアルが無いことを認識した上で利用することと、認識せずに利用するのでは全然違うと思うし、それでスクールバスが無くなるのはまた別の問題だと思うので、色んな考えがあるものだなと、行政に携わる方の苦勞が少しわかった気がした。

PTAを通して、教育委員会には改めて安全対応のマニュアル作成の要望は出しているが、赤磐市全体のスクールバスや市バスの安全対応マニュアルは必要だと思う。HPで閲覧できるようにしてほしい。

また、過去に何度かスクールバスの範囲拡大する要望があったそうだが、規約を変えると赤磐市全体を変えないといけなくなるから出来ないと言われていたそう。教育委員会の言い分も分かるが、「子育てするなら赤磐市」を謳うなら、範囲拡充を検討してもよいのでは？ 予算的に厳しいなら、市バス利用やファミサポでの送迎の斡旋なども同時に説明し、市民に寄り添った提案をしてあげてほしい。近年では熱中症の危険も高い中、一人二人で30分以上歩く児童もいる。規約は変えられなくても、希望者は下校時（一斉下校以外は空席だらけの状態です）だ

けでも市バス利用の100円／回で乗れるようにしてあげてほしい。

ボランティアで学校に授業のサポートをしに行くことがあるが、学校が希望するボランティアの人数が集まることはほぼ無い。共働きも多い中、これからの世の中でボランティアで人が集まるようになることは、よほどのことが無い限り「無い」のではないか。

私はボランティアやPTA役員を通して学校の現状を目の当たりにし、教育業務に携わりたいと思い、去年から会計年度任用職員の応募していますが、連絡はありません。

学校へボランティアに行くと、支援員さんもいますが足りない、先生は大変そう、ボランティアも人が集まらない。

児童の特性でどうしても危険なことをする子も目の当たりにし、毎日怪我せず帰ってくることが奇跡なんじゃないかと思うくらいです。教頭先生に支援員さんを増やせないか訊くと、「要望は出してるんですが、なかなか」とのこと。

予算の問題もあるでしょうが、「子どもは地域の宝」といっているのに解せません。

我が子の学校を良くするにはPTA役員や完全ボランティアでやるしかないのでしょうか？

教頭先生には支援員が派遣されないのなら、学校単

		<p>位でのファミサポの依頼（円滑な授業のため、児童の安全に関わる際など）を検討してみても提案しています。また、個人でも（子供に特性がある、いじめ、行き渋り、不登校など学校で心配事があれば）依頼できることを保護者が知っていて、活用できれば良いのかなと思います。</p> <p>学校（幼保こども園含む）や各家庭でもファミサポを活用する認知を広められたら、様々なニーズや困りごとに寄り添えるのではないかと？ 3時間無料チケット（欲を言えば5時間）とかあると子供が生まれた時から12歳まで活用できるので、認知が進むのではないのでしょうか？</p>	
9	P. 28 重点戦略 暮らし/住んで いて安心安全な まち	<p>「住んでいて安全安心なまち」が達成できているかどうかを推し量る評価指標が「転入者数」となる根拠が分かりません。</p> <p>各種の施策によって「住んでいて安全安心なまち」が達成された際に、向上する KPI の筆頭が「転入者数」と考えているのでしょうか。どちらかと言えば「転出者数」の減少ではないのでしょうか。</p>	<p>基本構想の「将来人口の目標」を達成するため、基本計画にある各施策を推進します。</p> <p>その中で、住んでいて安心安全なまちとなり定住が促進され、さらにまちの魅力が移住者を引き付け結果的に転入者数の増加に繋がることを意図しています。</p> <p>ご指摘のとおり転出者数に注目することも重要ですので、進学・就職タイミングで転出することの多い現状に鑑みて、魅力的な企業を誘致するなど若年層の市外への流出抑制に努めます。</p>
10	P. 32～P. 34 戦略プログラム I-② 農業に携	<p>農業の担い手を確保するために、年齢制限とかなく農業をやりたいという人を募集し（兼業でも OK で）何年かはベテランの方と一緒に農業をし、独り</p>	<p>いただいたご意見については、今後の農業関連施策の参考にさせていただきます。</p> <p>市民と行政が一体となって未来を描き、一緒になっ</p>

	<p>わる人が誇れる魅力創出プログラム</p>	<p>立ちした時は農地・農機具を無料あるいは低価格でレンタルできるようにするのはどうか？もし、そうなるなら私もすぐに参加したい。どこかの県で田んぼをオーナー制度にして作業に来れる時は来てもらおうというのをテレビで見ましたが、赤磐市でもそういうのをしてみるのはいかがでしょうか？</p> <p>笹岡、仁美辺りに空き家をリノベーションして古民家の民宿を建ててオーナー制度でそのオーナーさんが作業に来る時に泊まってもらう（もちろん観光の方もOK）。作業のため年に数回赤磐に滞在することで赤磐の良さを知ってもらい、もしかしたら移住に繋がるかも。この何年かで農業に興味を持つ都会の方はいると思います。更に去年からの米騒動、絶対に農業に興味を持つ方は増えてくると思います。どうですか？</p>	<p>てまちづくりを担っていくことを大切に考えて計画を策定するものです。</p>
<p>1 1</p>	<p>P. 37～P. 45 戦略プログラムⅡ-① 子どもは地域の宝、笑顔創出プログラム 戦略プログラムⅡ-② 安心して生み育てられる子育て世代への</p>	<p>子育てについて非常に熱心に取り組むという方針が見られて、子育て世代としては大変ありがたく、嬉しく思います。</p> <p>一方で、子育て支援がソフト面に偏っていることは少し気になります。もちろん子どもも親も人であり、その人たちのケアや教育というのは未来の赤磐市、日本、もっと言うと世界にとって最も重要だと思っておりますので、最優先で取り組んで頂きたいと思っております。</p> <p>とは言え、ハード面の課題も無視できないと思いま</p>	<p>重点戦略Ⅱ こども/子育て・教育環境が整ったまちにおける施策を、KPIの達成も含めて着実に推進します。</p> <p>赤坂地域の小学校統廃合による空き施設、新拠点については地域の声を聞きながら検討するため総合計画策定段階では明記することが難しいです、ご理解をお願いします。また、児童館については、十分に利用されていないとのことですので、まずは児童館や各地域の子育て支援センターといった既存施設の利用促進と利用環境の向上に努めます。</p>

	<p>総合的支援の推進プログラム</p> <p>戦略プログラム Ⅱ-③ 子どもの生きる力を育む環境創出プログラム</p>	<p>す。子どもは走り回るものです。昔は外で走らせていたのだと思いますが、近年の気候や労働環境、住環境の変化で、外で走らせておけば良いという時代ではなくなってしまいました。計画の中にメディアやゲームの弊害が書かれていますが、外で遊ばせられないので仕方ない部分もあると思います。季節や天候関係なく自由に走り回れたり、体を動かせたりする施設はいくつあっても助かります。吉備中央町の吉備プラザや、津山市のおもちゃ大使館のような施設があると嬉しいです。山陽児童館は時々利用しますが、とても良い施設だと思います。あまり認知されておらず、十分に利用されていないようですが、利用が増えてくると、市内の子どもの数に対してはキャパが全然小さいので、同じような施設がもっとあると良いと思います。小学校再編によって空いた学校や、新拠点などに、そのような施設が開設されることを期待していますし、総合計画でそういったことにも触れてもらえると頼もしいです。幼稚園の耐震化や体育館の空調設備については、ぜひ早いうちに100%を達成してください。</p>	
1 2	<p>P. 43～P. 45</p> <p>戦略プログラム Ⅱ-③ 子どもの生きる力を育む環境創出プログ</p>	<p>昨今のいじめ、犯罪など様々な社会問題を考えると、又は子どもの新しい教育を考えると、全ての大人が意識をアップデートさせなければならぬ、戦後昭和平成の負の連鎖は止めなければならぬと感じている。</p>	<p>いただいたご意見については、今後の教育関連施策の参考にさせていただきます。</p> <p>市民と行政が一体となって未来を描くことを大切に考えており、担い手としても行政のみならず市民活動など地域の中で育まれていくことを期待して</p>

ラム	<p>今の教育の良いところ、困っているところの振り返りが必須で、赤坂の統合準備委員会スタートの段階ではその難しさを感じた。また今回は統合が決まるまでのプロセスとデータの扱い方に疑問が残ったので、今後はアンケートの取り方、当事者たち、若者、子どもたちの意見の取り入れ方などに改善が求められる。</p> <p>時代が大きく変わり、学校の在り方、学習の仕方の議論が続くが、見た目だけのインクルーシブ教育ではなく、真の「生きる力」を育むためには、目の前の一人一人の子どもたちの能力の丁寧な見取りと共に、赤磐に眠るたくさん資源に気づき、子どもたちの興味につなげる工夫が必要。地域の戦前の暮らし方を知る世代が亡くなる前に、農文協などを呼んでセミナーや映画会を開き、海外や他県で取り組まれている里山での新しい暮らし方を学び、地域の先輩たちに憧れをもつ若い世代を増やしたいと思っている。デジタルを否定しているわけではなく、デジタル化しているからこそ里山で暮らせる。基本的な教科は通信制のN高、E u L a 通信制中等部などを取り入れ地域では幼少期から農・林業など体験的な学びを継続的に行うのはどうか。デジタルだけに偏らず、体を動かして半農半X的に心身のバランスをとりながら生きるのには格好の環境が中北部に揃っている。</p>	計画を策定するものです。
----	---	--------------

1 3	P. 46～P. 48 戦略プログラム Ⅲ-① 住んでいて安心安全を実感できるまちづくりプログラム	3.11 をきっかけに移住してきた人を集めてもっと情報収集するべき。「自助・共助」と書くのなら地域コミュニティ単位で備蓄をすれば安心感が多少はUP すると思う。	まずは地域住民による自発的な防災活動を行う団体（自主防災組織）を組織して、災害に強い地域づくりに取り組むことが必要と考えています。
1 4	P. 46～P. 48 戦略プログラム Ⅲ-① 住んでいて安心安全を実感できるまちづくりプログラム	過疎無医村の地域に対する具体的施策は？	「安心して医療が受けられる体制（P. 47）」に記載のとおり、過疎地・へき地への安定的な医療提供など課題として記載しています。 施策としては、関係機関と連携し、医療提供体制の確保・強化を行うとともに、相談窓口機能の充実を図ることとしており、個別計画などに基づき事業を推進します。
1 5	P. 52～P. 55 戦略プログラム Ⅲ-③ 将来にわたって持続可能なまちづくりプログラム	高齢化が進んでいる現在においてスマホ、PCを持っていない方へのアプローチは？デジタル化と同時に紙媒体のやり方を残すべき。	行政サービスのデジタル化により利便性向上と効率化を図るとともに、ご指摘のとおり紙媒体での手続きを必要とされる方への配慮が必要であると考えます。 いただいたご意見については、今後の事業の参考にさせていただきます。
1 6	P. 52～P. 55 戦略プログラム Ⅲ-③ 将来にわたって持続可能なまちづくりプログラム	国際的にも国内的にも今日の重要な課題は、持続可能な地球環境の維持を求める、地球温暖化対応施策の実施であろう。赤磐市での豊かな社会生活の実現を企図する諸施策も、豊かな環境が無ければ適わぬ幻に過ぎないと言えよう。しかし残念ながら、赤磐市の第2次総合計画にも、第3次総合計画にも環境	地球温暖化対策については、温室効果ガス削減に取り組んでいく必要がある課題として掲げており、再生可能エネルギーの導入や省エネルギーの推進による脱炭素社会の実現に取り組むこととしています。 赤磐市地球温暖化対策実行計画に基づく施策を推

	<p>を重視する理念が表明されていない。例えば、瀬戸内市の総合計画では、基本理念の第1に「環境重視」を掲げており、また新見市では、行動計画に「6. 環境：自然を守り、安らぎと潤いのある環境をつくる」と環境を意識した施策を記載している。</p> <p>今般、赤磐市が「赤磐市地球温暖化対策実行計画(区域施策編)」素案を公表したが、これの位置づけとして上位計画である第2次総合計画との整合を図ると述べているが、総合計画に地球温暖化対策を推進する姿勢が見られないので、全く齟齬をきたしていると言わざるを得ない。</p> <p>このような状況は、赤磐市が「環境基本条例」とこれに関わる「環境基本計画」あるいは「環境保全条例」を策定していない県内唯一の市であることに起因すると考える。岡山市は昨年度新たに条例制定に向け着手したが、赤磐市でも早急に「環境基本条例」の制定を図り、環境理念の確立を目指していただきたい。</p>	進してまいります。
--	--	-----------